

上海で「日本の茶器工芸展」を開催 —日本各地の茶器を中国人バイヤーに紹介—

北京事務所

開催に至った経緯

近年、自治体が行う海外での活動は、従来の友好的な交流から、観光PRや物産品の販路拡大、企業の進出支援といった経済分野へとシフトしてきています。中国は、世界一の人口を誇り、経済規模でも世界第2位である大きな魅力を持った市場であるため、中国国内における自治体の活動も、経済分野が大きな比重を占めるようになってきています。それゆえ、クリア北京事務所としても、経済交流分野の事業を強化しており、観光PR活動について言えば、北京市や広州市で開催される観光博覧会にブースを出展し、各自治体事務所や旅行会社と連携した日本各地の観光PRをすでに行っています。しかしながら、物産品の販路拡大というと、東日本10都県の食料品が東日本大震災の影響で未だに中国国内に輸入できないなどハードルが高く、なかなか支援を行うことが難しい状況が続いていました。

しかしながら、輸入にあたっての障壁が低いと思われる工芸品に着目して検討をした結果、茶碗や湯呑、急須といった日本各地にある高品質の茶器に的を絞って、展示会を企画することとなりました。

中国で絶大な人気を誇る南部鉄瓶に続け

なぜ「茶器」なのか？

その答えの一つに、中国国内市場における「南部鉄瓶」の存在があります。南部鉄瓶は、既に富裕層を中心に大変人気があるため、品切れが続き、産地でも対応できない状況になっていると聞きます。中国には日本と同様にお茶を入れる文化がありますが、お湯がやわらかくなり美味しく飲めるという効果や重厚感のあるデザイン、生産数がそれほど多くないという希少性が気に入られ、高価格にもかかわらず人気を誇っています。

そこで、南部鉄瓶に続く、日本各地にある優れた茶器を中国の方々にも紹介しようと開催したのが今回の「日本の茶器工芸展」でした。会場は、上海市の郊外にある世界最大級の家具専門モールの一 corner で、日本の家具・工芸品の展示やバイヤー向け販売を手がける「オリエンタルデザイン日本家居生活館」。初めての取り組みとなりましたが、各自治体を通して出展事業者を募集した結果、宮城県、福島県、茨城県、群馬県、新潟県、石川県、京都府、徳島県、長崎県の9府県から21事業者、出展数にして合計139品目の出展を得ることができました。



展示会場の様子

展示の当たっての課題

今回、事業者募集にあたっては、見本品展示も現地展示販売も双方可として募集をしました。中国国内での実績がない自治体・事業者は、見本品展示による知名度向上を、代理商を持つなどして中国国内での販売体制が出来上がっている事業者・自治体には、販売を通したバイヤーとの関係構築を提供したかったためです。

日本から上海への出展品の輸送は、事業者・自治体の方々に担当してもらおうということをお願いしましたが、輸送をどのように行うかは課題の一つです。輸送方法により、上限金額や上限重量が異なるため、それらによって方法を選択する必要があります。また、輸送方法により通関にも差異が生じるため、必要となる書類や所要日数が異なります。EMS や UPS といった国際宅配便であれば、必要書類の数もインボイスを含めて少なく済みますが、一般貿易での通関申告を行うと、輸送する出展物の詳細な情報を申請する必要があります。本展示会においても、通関に予想以上に日数がかかり、開幕に間に合わないということがありました。



並べられた出展品の数々



開催初日には茶道実演も披露

さらに、現地販売をする際の値段設定も課題の一つになります。今回、現地販売を実施した事業者の中国販売価格は、事業者の考え方や日本販売価格、輸入数によって差はありますが、概ね日本国内価格の2倍～2.5倍前後が多いように見受けられました。例えば、日本国内において10,000円で販売されている商品であれば、1200元～1500元くらい(1元=17円)が標準的な値段設定のようです。

今後に向けて

9月11日にスタートした本展示会では、開幕日にはオープニングセレモニーが実施され、茶道の実演も行われました。早々に石川県の九谷焼が成約に結びつき、長崎県の伊万里焼にも販売代理の意向を示すバイヤーが現れるなど、来場した中国人バイヤーから高い関心を引き出すことができています。陶磁器では、一般に、きらびやかな装飾の商品よりも落ち着いた柄物の商品に人気があるようです。また、群馬県の上野村からは、櫛(けやき)を使って製作した茶櫃(ちゃびつ)が出展され、こちらもバイヤーの目に留まりました。陶磁器が軒並み並び中で毛色の違う出展品でしたが、同じ商品でも木目が一つ一つ違う、まさに一点物というところが中国人バイヤーの興味を引いたようです。

これら陶磁器は、多くの中国人バイヤーの高い関心を引くことができていますが、一方では、価格面がネックとなり、購入を断念するバイヤーがいるなど、課題も見受けられました。

陶磁器により、素材、色彩、形状や大きさにそれぞれ特徴がある中で、一体どのようなものが中国人に受けるのか、どのくらいの価格までなら問題がないのか。今回の展示会を通じて、各自治体・事業者がより多くの知見を得ることを期待しています。

(川島所長補佐 群馬県派遣)

